



日本統計学会 会報 2016.7.31

No.
168

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任——中野 純司 (理事長) / 間野 修平 (庶務理事)
森 裕一 (広報理事) / 久保田 貴文 (広報委員)
西莖 晴久 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 1. 巻頭随筆：長寿リスク—統計学の新たな課題— …………… 小暮厚之 (慶應義塾大学) …… 1 | 9. 2016年度統計関連学会連合大会について …………… 青木敏・櫻井哲朗・橋口博樹・ …………… 姫野哲人・元山齊… 9 |
| 2. 第21回日本統計学会賞について…… 岩崎 学… 3 | |
| 3. 第12回日本統計学会統計活動賞について …………… 岩崎 学… 5 | 10. 特集記事 |
| 4. 第12回日本統計学会統計教育賞について …………… 岩崎 学… 5 | 10.1 シリーズ「統計学の現状と今後」 …………… 福元健太郎… 11 |
| 5. 第10回日本統計学会研究業績賞について …………… 岩崎 学… 6 | 10.2 シリーズ「統計の教え方」…… 佐藤俊哉… 12 |
| 6. 第9回日本統計学会出版賞について …………… 岩崎 学… 8 | 11. 理事会・委員会報告 (平成28年5月14日開催) …… 13 |
| 7. 第30回小川研究奨励賞について…… 岩崎 学… 8 | 12. 社員総会報告…………… 15 |
| 8. 赤池メモリアルレクチャー賞創設について…… 9 | 13. 博士論文・修士論文の紹介…………… 20 |
| | 14. 新刊紹介…………… 21 |
| | 15. 会員からの情報提供…………… 21 |
| | 16. 学会事務局から…………… 22 |
| | 17. 投稿のお願い…………… 23 |

1. 巻頭随筆：長寿リスク—統計学の新たな課題—

小暮 厚之 (慶應義塾大学)

「長寿リスク」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。長寿という慶ぶべき出来事に潜む思いもよらない経済的なリスクを指しています。私は10数年前から、この逆説的なリスクの統計分析に関心を抱いてきました。

長寿リスクを例示するために、簡単な年金を考えてみましょう。この年金を購入した人は、10年後に生きていれば100万円支払われ、死んでいれば何も受け取れません。ある保険会社が、65歳の男性 n 人にこの年金を販売したとします。生命表にある65歳から74歳までの死亡確率 (= 各年齢において1年以内に死亡する確率) から生存確率 (1-死亡確率) を求め、それらを掛け合わせるこ

とによって65歳男性の10年間生存確率 p が求められます。このとき、年金購入者 n 人の一人当たり年金支払額 a_n の期待値は p (百万円) です。個々人の死亡を独立事象とすれば、 a_n の標準偏差は $\sqrt{p(1-p)/n}$ (百万円) となり、 n とともにゼロに近づきます。従来は、このような大数の法則的效果を前提として、多数の年金購入者を集めるリスクプーリングが保険のリスク管理の基本とされて来ました。

しかし、近年の各国における推移を観察すると、実際の死亡率は低下傾向を示しながら時間的に変動していることが分かります。この年金の例で、もしも死亡率が一定でなく、 p が確率的に変動し

たらどうなるでしょうか。この場合、 n がいくら大きくなったとしても、 p の変動に伴う a_n の分散は消えることはありません。したがって、リスクプーリングという伝統的な手段では長寿リスクに対処することはできません。

長寿リスクは、死亡率が変動することから生じます。そのため、長寿リスクを分析するためには、死亡率のダイナミックな動きを記述するモデルが必要となります。このような確率的死亡率モデルの基礎になっているのは、Lee-Carter モデル (JASA, 1992) という人口統計学のモデルです。観察死亡率のデータは、暦年 t における x 歳の死亡率 m_{xt} の行列 $[m_{xt}]$ として与えられます。Lee-Carter モデルでは、 m_{xt} を特異値分解によって時間要因と年齢要因に分け、抽出した時間要因に ARIMA モデルを適用することによって将来の死亡率を予測します。

Lee-Carter モデルは様々に拡張され、長寿リスクを分析する際の標準的なツールとなっていました。統計学の観点からは、Lee-Carter モデルを始めとする多くの確率的死亡率モデルは、状態空間モデルの特別な場合であり、ベイズ法によるアプローチが自然のように思われました。私が学生の頃 (40年前!) には頻度法とベイズ法を巡った論争がよく交わされていました。私は何となく頻度派だったのですが、長寿リスクの分析にはベイズ法の柔軟な枠組が役立つように感じられました。

ベイズ法に着目した理由のひとつに、パラメータ不確実性の問題があります。Lee-Carter モデルはパラメータを多く含むため、それらの推定誤差を考慮に入れて将来死亡率の予測を行う必要があります。しかし、最尤推定法の枠組みではこの問題をうまく処理できません。ベイズ予測分布を用いることで、特別な処理を施さずともパラメータ不確実性を考慮した予測を行うことができました。MCMC 法を用いることによって、このようなパラメータが多いモデルでも、簡単に推測を実行できることにも驚かされました。

死亡率の統計的モデリングの次に、長寿リスクをいかに管理するかというもう一つの挑戦的な課

題があります。上述しましたように、長寿リスクの管理にリスクプーリングという伝統的な手法は無効です。欧米では、有望な代替策として、長寿リスクを金融市場で取引することが議論されています。そのような研究の中心となっているのは 2005年にスタートした「長寿リスク会議」(Longevity Risk and Capital Market Solutions Conference) です。この会議は研究者と実務家が同じ土俵で会する産学共同研究です。さらに、このような研究成果を受け、米国 J.P. Morgan 社は 2007年に Lifemetrics という長寿リスク及び死亡リスクを測定・管理するためのプラットフォームを立ち上げました。このような動きに触発され、私も将来死亡率のベイズ予測分布をリスク中立化するアイデアを提案しました。リスク中立化というのは金融の世界でリスク調整を行う手法です。昔勉強した金融工学の知識が思わぬところで役立つ

きました。長寿リスクの研究を始めてから自分の研究スタイルも変わりました。以前は、自分だけで事足れる領域でマイペースに活動してきました。しかし、長寿リスクのような応用研究では、実際のデータを用いた分析や計算が多くなり、自分一人では手に負えません。自然と学生と共同で研究を進めるようになりました。発表の機会を求めて、海外の学会に出かける事も多くなりました。そのような学会でアメリカ留学時代の旧友に再会したり、最前線で活躍している研究者に出会ったりし、大いに刺激されてきました。また、2011年にシンガポールのナンヤン工科大学ビジネススクールで保険リスクの研究所が立ち上がったときには、客員研究員として共同研究に加わりました。

長寿化は世界中で進行している現象です。そのトップランナーである日本は長寿リスクの研究でイニシアチブを取るべき立場にあると思っています。そのような問題意識の下、2014年統計関連学会連合大会では「統計学と保険」というセッションを企画し、長寿リスクや介護リスクの研究者・実務家の方々に発表して頂きました。「データドリブン」の時代において統計学が担うべき課題は

ますます増えています。その重要な課題の一つとして、長寿リスクへの関心が高まることを期待し

ています。

2. 第21回日本統計学会賞について

日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学)

[1] 受賞者氏名：鎌倉 稔成 氏

略歴：1976年 東京工業大学経営工学科卒業、1980年 東京工業大学大学院博士後期課程中退、1989年 工学博士（東京工業大学）、1980年 統計数理研究所研究員、1985年 中央大学理工学部専任講師、1989年 同助教授、1995年 同教授、2005年 中央大学大学院理工学研究科委員長、2014年 中央大学理工学研究科所長、2008年 応用統計学会会長、2013年 日本統計学会理事長。

授賞理由：鎌倉稔成氏は、生存時間分析における統計解析手法の理論開発に尽力され、その成果は著名学術雑誌に掲載されるなど、多くの優れた研究成果を上げてこられた。また近年では、センシングデータに対するモデリング法などを多数開発され、映像に基づく歩容解析手法の提案、室内での位置推定手法の開発、製品生産工程におけるヒートシールの温度管理など、統計理論の分野だけでなく、数多くの応用科学分野の発展に大きく寄与された。また、統計学界への貢献としては、日本統計学会の理事長や応用統計学会の会長など、多くの学会において、理事、評議員などを歴任し、学会活動に多大な貢献をされている。教育面においても、多くの博士号取得者を輩出するなど、その貢献は顕著である。鎌倉氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] Kamakura, T. and Yanagimoto, T. (1983) Evaluation of the regression parameter estimators in the proportional hazard model. *Biometrika*, 70, 530-533.

[2] Kamakura, T. and Yanagimoto, T. (1985) Point process models in asthma attacks for assessing

environmental risk factors. *Environmental Health Perspective*, 66, 203-210.

[3] Kamakura, T. and Takizawa, T. (1994) Multiple comparison among groups of growth curves. *Environmental Health Perspective*, 102, 37-42.

[4] Kamakura, T. (2012) Computational methods in survival analysis. In *Handbook of Computational Statistics*, 2nd Edition, Springer, 807-824.

[5] Nagatsuka, H., Kamakura, T. and Balakrishnan, N. (2013) A consistent method of estimation for the three-parameter Weibull distribution. *Computational Statistics and Data Analysis*, 58, 210-226.

[2] 受賞者氏名：栗木 哲 氏

略歴：1982年 東京大学工学部計数工学科卒業、1984年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専門課程修士課程修了、博士（工学）（東京大学）、1984年 日本電気株式会社、1987年 東京大学助手、1993年 信州大学助教授、1995年 統計数理研究所、総合研究大学院大学助教授、2005年 同教授。

授賞理由：栗木哲氏は、積分幾何学などの高度な数学を利用して多変量解析の理論を発展させ、多くの研究成果を挙げてきている。中でも、特異モデルにおける検定、同時区間推定、多重検定などで必要とされるチューブ法あるいはそれを一般化したオイラー標数法の発展に大きく貢献した。特にチューブ法に関しては、従来の手法では困難とされてきた未解決問題を解いたことに加え、応用上の価値も高いことを再認識させ、近年では、その理論的な拡張に尽力するとともにゲノム統計解析への活用を図るなど、その貢献には枚挙にいとまがない。また、学術雑誌 *AISM* のエディターを長期にわたり務めるなど、統計学の多くの分野で

の業績が顕著である。栗木氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] Hirotsu, C., Kuriki, S. and Hayter, A.J. (1992) Multiple comparison procedures based on the maximal component of the cumulative chi-squared statistics. *Biometrika*, 79, 381-392.

[2] Kuriki, S. (1993) One-sided test for the equality of two covariance matrices. *Annals of Statistics*, 21, 1379-1392.

[3] Takemura, A. and Kuriki, S. (1997) Weights of chi-bar-squared distribution for smooth or piecewise smooth cone alternatives. *Annals of Statistics*, 25, 2368-2387.

[4] Kuriki, S. and Takemura, A. (2001) Tail probabilities of the maxima of multilinear forms and their applications. *Annals of Statistics*, 29, 328-371.

[5] Kuriki, S. and Numata, Y. (2010) Graph presentations for moments of noncentral Wishart distributions and their applications. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 62, 645-672.

[3] 受賞者氏名：田栗 正章 氏

略歴：1968年 東京大学工学部計数工学科卒業、1970年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専門課程修士課程修了。工学博士（大阪大学）。1971年 千葉大学理学部助手、1974年 同講師、1983年 同助教授、1988年 同教授。2004年（独）大学入試センター研究開発部教授、2007年 同副所長。2010年 中央大学大学院理工学研究科客員教授。2006年 応用統計学会会長、2014年 日本学術会議連携会員。1977年 日経品質管理文献賞、2008年 大内賞受賞。

授賞理由：田栗正章氏は、統計データのグラフ表

現やサンプリング理論、リサンプリング理論の研究およびそれらの実際問題の応用により、当該分野の進歩に大いに寄与した。また、大気環境の保全に関わる統計解析の理論的・実践的研究も積極的にを行い、日本全国の地方自治体における大気汚染状況の把握には、この研究で提案された方法が標準的なものとして有効に利用されている。さらに、窒素酸化物濃度の予測の研究にも携わり、その研究成果は大気環境研究では一流の国際誌に掲載された。近年は、入学者選抜に関する統計解析にも深く関わり、研究面のみならず入学試験の実施に関しても本質的な寄与をしている。さらには、大学における統計教育の質保証のための参照基準の取りまとめに中心的な役割を果たすなど、統計教育に関する貢献も顕著である。田栗氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] 脇本和昌・田栗正章（1974）連結ベクトルパターンによる重相関度の表現。日本統計学会誌、5、9-24.

[2] Taguri, M. (1982) Optimum stratification and its robustness (IV) Robustness on stratification points. *Reports of statistical Application research, JUSE*, 29, 32-41.

[3] Wang, J. and Taguri, M. (1998) Improved bootstrap through modified resample size. *Journal of the Japan Statistical Society*, 28, 181-192.

[4] ラオ, C.R. (著) 藤越康祝・柳井晴夫・田栗正章 (共訳) (1993) 統計学とは何か－偶然を生かす。丸善。

[5] 汪 金芳・田栗正章・手塚 集・樺島祥介・上田修功 (共著) (2003) 計算統計 I - 確率計算の新しい手法。岩波書店。

3. 第12回日本統計学会統計活動賞について

日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学)

受賞者氏名：鈴木 督久 氏

略歴：1982年 早稲田大学第一文学部卒業。1982年 (株) 日経リサーチ入社。1990年 日本経済新聞社政治部記者。2005年 日経リサーチ 取締役。2016年 常務執行役員。東京大学、筑波大学、早稲田大学などの非常勤講師を務める。応用統計学会、日本行動計量学会、日本品質管理学会、日本世論調査協会、日本マーケティング・リサーチ協会、社会調査協会、統計質保証推進協会などでの役職を歴任。2003年 日本品質管理学会品質技術賞、日本行動計量学会優秀賞受賞。

授賞理由：鈴木督久氏は、共分散構造分析を用いた優良企業活動を統計的に評価する調査方式の開発・実装において長年リーダーシップを発揮され、これによりわが国の統計的企業評価活動の水準は大きく向上した。また、選挙予測におけるブートストラップ法の適用などでも大きな役割を果たした。東京大学、筑波大学、早稲田大学などの大学・大学院で、実務の裏付けのある実践的な統計調査法、統計的データ解析などの講義を行い、今日の共分散構造モデリングの人文科学分野での隆

盛に果たした役割も大きい。さらには、日本統計学会認定の統計検定の立ち上げにおいても、その実務的専門性を十分に発揮された。調査技術に関する一般誌や新聞などの解説も多く、その統計的活動は顕著である。鈴木氏の活動は、統計学の普及および更なる啓発につながるものであり、統計活動賞にふさわしいものである。

参考資料：

- [1] 鈴木督久 (2002) SEMによる企業イメージのマネジメント－平均構造・多母集団解析の応用－。行動計量学, 29, 2, 42-49.
- [2] 鈴木督久 (2003) モンテカルロ法による衆院議席予測精度の検討。オペレーションズ・リサーチ, 48, 1, 11-16.
- [3] 鈴木督久 (2003) 調査データによる企業評価システムの構築－「日経プリズム」の10年－。品質, 33, 3, 52-58.
- [4] 朝野熙彦・鈴木督久・小島隆矢 (2005) 入門共分散構造分析の実際。講談社。
- [5] 鈴木督久・佐藤 寧 (2012) アンケート調査の計画と分析入門。日科技連出版社。

4. 第12回日本統計学会統計教育賞について

日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学)

[1] 受賞者氏名：石井 裕基 氏

略歴：1984年 静岡大学理学部卒業。1984年 香川県立坂出工業高校教諭。1987年 香川県立高瀬高等学校教諭。1991年 香川県立多度津工業高等学校教諭。1995年 香川県立丸亀高等学校教諭。2006年 香川県立観音寺第一高等学校教諭。

授賞理由：石井裕基氏は、統計教育で注目されている統計的問題解決の中等教育への導入に対して、精力的に活動している。特に、スーパーサイエン

スハイスクール (SSH) の指定を受けた高等学校における数学の授業において、統計的な内容の授業開発に意欲的に取り組み、生徒が主体的に学ぶ姿勢を踏まえながら、全国統計グラフコンクールや統計教育の方法論ワークショップおよびスポーツデータ解析コンペティションなどにて、生徒の発表を指導し、顕著な教育的な実践活動を展開している。高等学校教育の中で統計教育の導入や普及に努めている点は、学校教育における統計教育

活動として高く評価できる。石井氏のこれらの活動は統計教育のこれからの発展に大きく貢献するものであり、統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] 石井裕基（2012）全国 SSH 交流支援教員研修数学科教員香川研修会発表。

[2] 石井裕基（2013）高校教育フォーラム2013パネル討論。

[3] 石井裕基（2015）うどん県立高校の統計教育黎明記。第11回統計教育の方法論ワークショップ。統計数理研究所共同研究レポート335，統計教育実践研究第7集，127-134。

[4] 石井裕基（2015）全国 SSH 交流支援教員研修 数学科教員徳島研修会発表。

[5] 石井裕基（2016）うどん県立高校の統計教育迷走記。第12回統計教育の方法論ワークショップ。統計数理研究所共同研究レポート362，統計教育実践研究第8集，95-98。

[2] 受賞者氏名：センサス@スクールプロジェクトによる統計教育の普及促進(主査:青山和裕氏)

略歴（青山和裕氏）：2000年 愛知教育大学大学院教育学研究科数学教育修了，2005年 筑波大学大学院学校教育専攻単位取得退学。2008年 愛知教育大学数学教育講座助教，2010年 同講師，2011年 同准教授。日本数学教育学会，日本科学教育学会などの役職を歴任。

授賞理由：センサス@スクールプロジェクトは、

国際センサス@スクールプロジェクトと連携し、初等・中等教育段階向けの統計教育の普及・促進のため、統計数理研究所とも協力し、日本版センサス@スクールサイトを開発・公開・運営している。このサイトは、2009年に稼働を開始し、文部科学省および総務省の後援を得て、現在まで中学校などでの統計学習に役立てられている。青山主査を中心とする研究部会は、国際プロジェクトの参加各国と連携し、教材開発と共有化を進め、日本版センサス@スクールサイトを通じて現場教員への支援を継続的に行っている。青山氏を主査とするセンサス@スクールチームの活動は、統計教育のこれからの発展に大きく貢献するものであり、統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] 青山和裕（2007）日本の統計教育改善の方向性についての検討。日本統計学会誌，シリーズJ，36，263-277。

[2] 統計数理研究所共同研究レポート，統計教育実践研究 No. 1，51-52，No. 2，2-3，No. 3，69-70，No. 4，56-57，No. 5，66-67，No. 8，13-16。

[3] 日本数学教育学会第41回数学教育論文発表会論文集，465-470。

[4] CensusAtSchool 2nd International Workshop（2008），International Association for Statistical Computing（2008），57th Session of the International Statistical Institute（2009），2013 Joint IASE, IAOS Satellite Conference（2013）などにおける研究発表。

5. 第10回日本統計学会研究業績賞について

日本統計学会会長 岩崎 学（成蹊大学）

[1] 受賞者氏名：金森 敬文 氏・藤澤 洋徳氏（共同受賞）

略歴：金森敬文氏：1994年 東京大学工学部計数工学科卒業，1996年 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了，1999年 総合研究大学院大学数物科学研究科博士課程修了。博士（学術）（総合研究大学院大学）。統計数理研究所 COE 研究員，

モントリオール大学博士研究員を経て2001年 東京工業大学大学院情報理工学研究科助手，2007年 名古屋大学大学院情報科学研究科准教授，2016年 同教授。

略歴：藤澤洋徳氏：1992年 広島大学理学部数学科卒業，1997年 広島大学大学院理学研究科博士後期課程修了。博士（理学）（広島大学）。1997年

広島大学経済学部研究員，1997年 東京工業大学大学院情報理工学研究科助手，2001年 統計数理研究所助教授，2013年 同教授。

授賞理由：金森敬文，藤澤洋徳の両氏は，下記の2論文に代表される研究活動により，ダイバージェンスに基づくロバスト統計の世界に新しい視点を持ち込み，独創的な成果を上げた。論文 [1] では，経験推定可能性とアフィン共変性を持つダイバージェンスの一般的なクラスを提案してその性質を考察し，ロバスト推定に適用した。論文 [2] では，さらにその研究を一般化し，統計モデルと外れ値の割合を，潜在バイアスなく同時推定することを可能にしている。ダイバージェンスに基づく統計モデルの推定に加えて，外れ値の割合をも同時推定するという視点をロバスト推定へ導入したことは，きわめて独創的なものである。以上の通り，金森，藤澤両氏のロバスト推定への新たな視点の導入の業績は顕著であり，日本統計学会研究業績賞として顕彰するにふさわしいものである。

主要業績：

[1] Kanamori, T. and Fujisawa, H. (2014) Affine invariant divergences associated with composite scoring and their applications. *Bernoulli*, 29, 2278-2304.

[2] Kanamori, T. and Fujisawa, H. (2015) Robust estimation under heavy contamination using unnormalized models. *Biometrika*, 102, 559-572.

[2] 受賞者氏名：村上 秀俊 氏

略歴：2002年 中央大学理工学部数学科卒業，2007年 中央大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士（理学）（中央大学）。2007年 中央大学理工学部経営システム工学科，2009年 防衛

大学校総合教育学群講師，2015年 東京理科大学理学部数理情報科学科講師。2013年 日本計算機統計学会優秀賞受賞。

授賞理由：村上秀俊氏は，ノンパラメトリック検定法や分布の近似法の構築に関して，有益な数理統計的な成果を数多く得ている。特に近年，ノンパラメトリック検定に対するサドルポイント近似の提案や検定統計量の不偏性などに関する多くの論文を公刊し，この分野での研究業績が顕著である。また村上氏は，当該分野に関する一般向けの著書を出版し，近年の研究成果を取りまとめるとともに，この分野の学習者に有益な情報を提供している。以上のように村上氏は，旺盛な研究活動による研究成果の公表が顕著であり，日本統計学会研究業績賞として顕彰するにふさわしいものである。

主要業績：

[1] Murakami, H. (2014) A saddlepoint approximation to the distribution of the sum of independent non-identically uniform random variables. *Statistica Neerlandica*, 68, 267-275.

[2] Murakami, H. (2014) Asymptotic efficiency and small sample power of a locally most powerful linear rank test for the log-logistic distribution. *Mathematical Sciences*, 8, 109-115.

[3] Murakami, H. (2015) A randomized Baumgartner statistic for multivariate two-sample testing hypothesis. *Journal of Statistical Computation and Simulation*, 85, 189-201.

[4] Murakami, H. (2015) The power of the modified Wilcoxon rank sum test for the one-sided alternative, *Statistics*, 49, 781-794.

[5] 村上秀俊 (2015) ノンパラメトリック法. 朝倉書店.

6. 第9回日本統計学会出版賞について

日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学)

授賞出版物：バイオ統計シリーズ (全6巻)

受賞者氏名：柳川堯氏・近代科学社 (共同受賞)

略歴 (柳川 堯 氏)：1966年 九州大学理学部数学科卒業, 1966年 九州大学大学院理学研究科修了, 理学博士 (九州大学). 九州大学理学部助教授, 教授などを経て, 2004年 久留米大学教授 (バイオ統計センター). 応用統計学会会長, 日本計量生物学会会長, 日本学術会議会員などを歴任. 日本統計学会賞, Public Health Service Award (US Government), 日本計量生物学会賞および功労賞などを受賞.

授賞理由：柳川堯氏は, 医学分野における統計的方法論が重要性を増す中, 久留米大学にバイオ統計センターを設立し, その後中心メンバーとして運営に尽力されてこられた. これまでの研究と教

育の成果物としての本シリーズは, 次の6冊からなるものである: ① バイオ統計の基礎 (2010), ② 臨床試験のデザインと解析 (2012), ③ サバイバルデータの解析 (2010), ④ 医療・臨床データチュートリアル (2014), ⑤ 観察データの多変量解析 (2016), ⑥ ゲノム創薬のためのバイオ統計 (2010). このシリーズは, バイオ統計センターでの教育・研究を超えて, 我が国におけるバイオ統計分野でのテキストあるいは参考書として極めて有用なものとなっている. このシリーズを出版した近代科学社の慧眼も評価に値する. 本シリーズは, 日本におけるバイオ統計の普及に重要な貢献をなしており, 日本統計学会出版賞としてとして顕彰するにふさわしいものである.

7. 第30回小川研究奨励賞について

日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学)

受賞者氏名：廣瀬 善大 氏

受賞論文：Hirose, Y. and Komaki, F. (2015) . An Estimation Procedure for Contingency Table Models Based on Nested Geometry. Journal of the Japan Statistical Society, Vol.45, No.1, pp.57-75.

受賞論文の評価：正規線形回帰モデルのパラメータ推定におけるスパース正則化法の一つである Least Angle Regression (LARS) 法は, 2004年に Efron, Hastie, Johnstone and Tibshirani により提案されて以来広く利用されている. しかし, 正規線形回帰モデル以外のモデルへの LARS 法の直接適用には困難がある. 廣瀬氏は, 2010年の論文 (Hirose and Komaki) において, LARS 法の情報幾何に基づく拡張である bisector regression 法を

提案し, 一般化線形回帰モデルに対し幾何学的に自然なスパース推定を可能にした. 今回の論文では, bisector regression 法を用いた分割表モデルにおける交互作用の推定手法を提案している. 交互作用の推定ではその次数を考慮するのが自然であり, 提案手法では次数の異なる交互作用を問題の幾何学的な構造に基づき順次推定する. また, 提案手法と形式的な正則化法とを数値実験により比較し, 提案手法の優位性を示している. 非正規モデルにおけるスパース推定は応用面からも重要なトピックであり, この分野に貢献した受賞論文は, 日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしいものである.

8. 統計数理研究所と日本統計学会が 「赤池メモリアルレクチャー賞」を共同で創設

第1回受賞者および記念講演が決定

統計数理研究所と日本統計学会は、故赤池弘次博士の功績を記念して、若手人材の育成を促進し、統計科学の発展に寄与するため、同研究分野において顕著な業績を挙げた研究者を対象とした「赤池メモリアルレクチャー賞」を共同で創設しました。

第1回受賞者はジョージア工科大学産業システ

ム工学科の C.F. Jeff Wu 教授に決定しました。受賞式および記念講演は、9月4日（日）～7日（水）に金沢大学で行われる2016年度統計関連学会連合大会の日本統計学会の企画セッションで実施される予定です。詳しくは日本統計学会のウェブページをご覧ください。

9. 2016年度統計関連学会連合大会について

大会委員会 青木 敏, 櫻井 哲朗, 橋口 博樹, 姫野 哲人, 元山 斉

2016年度統計関連学会連合大会の進捗状況を、5月9日付にて発表されました第三報より抜粋して紹介いたします。詳しい情報や関連する情報は、連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2016/>

に随時掲載されますので併せてご覧ください。

既に、講演申込と報告集原稿提出期間は終了しています。大会プログラムは、現在、プログラム委員会により作成中です。確定後のプログラムは、上記ウェブページに掲載されます。

1. 大会日程、開催場所、事前参加申込

| | |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日程 場所 | 9月4日（日）： チュートリアルセッションと市民講演会 （石川県教育会館） 9月5日（月）～7日（水）：本大会 （金沢大学・角間キャンパス・ 人間社会第1講義棟） |
| 主催 | 応用統計学会，日本計算機統計学会， 日本計量生物学会，日本行動計量学会， 日本統計学会，日本分類学会 |
| 共催 | 統計教育大学間連携ネットワーク （JINSE） |
| 懇親会 | 9月6日（火）19：00～（予定） KKR ホテル金沢 |
| 事前参加 申込 | 7月11日（月）13：00～ 8月15日（月）17：00 |

2. チュートリアルセッションのご案内

人工知能の技術を囲碁や将棋と言ったゲームに実装して、人間を負かせるようにまでなってきたのは記憶に新しいところです。そこで今年はこの一分野である機械学習についてチュートリアルセッションを開催することにしました。近年注目を集めている分野ですので、多くの参加者にご興味を持っていただけたと思います。参加費については「4. 参加申込と大会参加費」をご覧ください。

日時：2016年9月4日（日）13：00～16：00（休憩時間を含む）

場所：石川県教育会館（金沢市香林坊1-2-40）

テーマ：統計・計算理論で広がる機械学習

講演者：鈴木大慈（東京工業大学）

3. 市民講演会のご案内

阪神・淡路大震災や東日本大震災の例を挙げる

までもなく日本列島は地震に繰り返し襲われており、また先日は熊本・大分で大きな地震があり、現在も多くの方が被災生活を送っておられます。そこで今回の市民講演会では地震研究に対して統計科学がどのように寄与しているかについてご紹介いただくことにしました。なお、参加費は無料です。奮ってご参加いただければと思います。

日時：2016年9月4日（日）16：30～18：00

場所：石川県教育会館（金沢市香林坊1-2-40）

題名：地震研究に貢献する統計科学（仮題）

講演者：長尾大道（東京大学）

4. 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため、ウェブページからの事前申込にご協力ください。事前申込受付期間は「1. 大会日程、開催場所、事前参加申込」を参照してください。事前申込の場合、参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費（報告集代を含む）

| | 事前申込 | 当日受付 |
|----|--------|---------|
| 会員 | 7,000円 | 10,000円 |
| 学生 | 3,000円 | 8,000円 |

チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）

| | 事前申込 | 当日受付 |
|----|--------|--------|
| 会員 | 3,000円 | 4,000円 |
| 学生 | 2,000円 | 4,000円 |

懇親会参加費

| | 事前申込 | 当日受付（下の注意を参照） |
|----|--------|---------------|
| 一般 | 6,000円 | 7,000円 |
| 学生 | 3,000円 | 4,000円 |

【注意】

(1) 講演申込をされた方も参加申込の手続きが必要です。

(2) これまでの大会と同様に、事前申込のキャンセルと変更は認められません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料は後日送付いたします。

(3) 市民講演会は無料です。

(4) 会場および日程の都合により、懇親会は事前申込制としますのでご注意ください。収容人数に余裕がある場合に限り、当日受付（ただし9月4日（日）のみ）を行います。

(5) 学生以外の非会員の方の参加費は、上記ウェブページをご覧ください。

5. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。各自で早めに宿泊の予約をお済ませください。大会期間中、金沢市内の宿泊施設は満室も予想されます。大会会場の金沢大学角間キャンパスへは、金沢駅東口（兼六園口）バスターミナル6番乗り場から金沢大学行きバス（91・93・94・97系統）に乗り、終点で下車してください（所要時間約40～50分）。なお本大会開催中は、午前のセッションに合わせて金沢駅から金沢大学行きのバスを増発します。またセッションの終了に合わせて金沢大学発金沢駅行きのバスを増発します。臨時バスのスケジュールについては追ってお知らせいたします。バスの時刻表など他の交通案内については、金沢大学へのアクセスのページ

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access>

をご覧ください。懇親会場のKKRホテル金沢へは、金沢大学から金沢駅行きのバス（93・94・97系統）に乗り「武蔵ヶ辻・近江町市場」で下車（所要時間約25分）後、徒歩10分程度です。91系統のバスは武蔵ヶ辻を經由しませんのでご注意ください。

10. 特集記事

10. 1 シリーズ「統計学の現状と今後」

日本の政治学で統計学がかこつ三重の不遇

福元 健太郎 (学習院大学)

私は、政治現象にあった統計手法を開発することを専門にしている。しかし日本でそのような研究をしていると、幾重もの困難に遭遇する。本稿はその愚痴である。

まず第1に、そもそも政治学で統計どころか数字を扱うこと自体に驚かれることがいまだに多い。普通の人にとって政治学と言えば、マス・メディアで根拠もないことを垂れ流す現代日本政治評論家は別にしても、古代ギリシア以来の思想や、遠い外国の政情や、昔の歴史を研究する学問だ、というのが相場だろう。小難しい横文字や埃をかぶった史料を読んでいる方がありがたいのである。数式とにらめっこしている私を見ている妻は、私を政治学者とはあまり思っていないようである。法学部に来る学生など、数学が嫌で選んだ者がいくらでもいる。あるいは、人間は合理的ではないのだから、データや数式で政治はわからない、という人もいる。

一般の方がこのような印象を持つのも無理からぬことだ。何故なら、日本の政治学者の中で計量分析をしている者は少ないからである。ただ、そうは言いながらも、そもそもが数字の選挙研究を中心に、政治現象を数値化したデータを作り、それを回帰分析するといった計量政治学者は、若手を中心に、この2、30年で確実に増えてきた。厄介なのは、彼らは依然として少数派なのだが、勢いはあるので、多数派は、脅威を感じるのか、こうした動きを止めんばかりに批判してくるということだ。そんなことでひるんではいけないが、偉い先生に叩かれる院生はやはり可哀想だし、就職だって考えなくちゃいけない。これが第2の問題である。

少なからぬ思想家や比較政治学者や歴史家は、

政治現象を数字に落とし込んで分析することは、政治の実態を過度に単純化してしまい、政治を正しく理解することにつながらないと考えている。あるいは、因果関係を確定する、もしくはそこまで言わなくても理論を実証する上では、高々数個の独立変数しか用いない回帰分析などより、1個～数個の事例研究によって、「厚い」記述を重ねて「過程追跡」をした方がよいと、本気で考えている。私も昔はそういう人達と、定量的手法と定性的手法の優劣をめぐる議論をしていたことがあるが、全く生産的でないので、最近の結果を出すことに注力している。

とは言え、目を海外（というか、米国）の政治学に転じれば、一流学術誌の中に、図表や数式のない論文は、数えるほどしかない。計量政治学が主流であることは明白である。日本の経済学における近代経済学とマルクス主義経済学との闘争と同じようなことが、数十年遅れで日本の政治学でも起きることを期待したいところである。

しかし仮にそうなったとしても、私の3番目の憂鬱はまだ晴れないだろう。何故なら、日本の計量政治学者のほとんどは、統計手法のユーザーであって、ディヴェロッパーではないからである。分野毎の応用統計は、英語で言えば、経済学なら econometrics、生物学や医学なら biostatistics などと呼ばれているが、政治学の場合 political methodology と名付けられている（定訳はないが、政治分析方法論としておく）。他のディシプリンと同様、政治のデータにはそれぞれ特有のくせがあり、それに対処した統計手法を開発する必要がある。あるいは理論やデータ発生過程に合わせたモデリングもしなくてはならない。世界では、新たな統計モデルや推定方法などを生み出す政治学者がい

るし、彼らの専門誌 Political Analysis は政治学の中で最もインパクト・ファクターが高い。しかし、日本の政治学には政治分析方法論の研究者はほとんどいない。

私はその数少ない一人であり、内外で講演する時のいい枕話にはなる。しかしやはり同志が少ないのは寂しいだけでなく、議論ができないという実害もある。そこで毎年3回前後は海外の学会で報告するが、それ以上は行く金も時間もないので、国内で政治学以外の分野（経済学や統計学や情報処理など）の学会や研究会に出かけて行って、話を聞いてもらう機会を作る以外にない。そうこうしているうちに、このように短文の執筆を依頼されることにもなる訳である。

今のところ、この第3の不遇が解消される見通しは、全くといっていいほど立たない。かつて米国人に「日本は数学教育が優れているのに、どうして政治分析方法論をやる人が少ないのか」と問われたことがある。適当な答えはいくらでも思いつくが、本当の理由は私もわからない。仕方がないので、最近、政治学の中で統計を研究する人が出ないのなら、統計を使いこなせる異分野の人が、面白さ満載の政治データを分析しに乗り込んでくるのもいいかな、と思い始めている。この駄文に最後までお付き合いいただいた方の中で、一人でも多くの方が、政治にも関心を持っていただくことを願っている。

10. 2 シリーズ「統計の教え方」

「宇宙怪人しまりす」とともに

佐藤 俊哉（京都大学）

大学で医療統計を教えてかれこれ20年になります。大学の教員というのは不思議なもので、「教え方」など一切学ばないまま教員となり、授業をしなければならぬわけです。東京大学の疫学教室で助手となり「統計情報処理演習」という午前講義2コマ、午後実習2コマを先輩の助手とふたりで分担して担当しましたが、最初は教科書をなぞる講義が精いっぱい、さぞかしつまらなかったことだろうと思います。

転機が訪れたのは統計数理研究所に移り、当時東京大学の教養学部いらした岸野洋久先生から教養で理科Ⅱ類・Ⅲ類の学生に生物統計学の講義をしてほしい、と頼まれたときです。東京大学（これも当時です）の大橋靖雄先生と隔週で分担して講義をしたのですが、教科書は使わずに、生物医学に関するいろいろな題材をもとに統計のおもしろさを伝えようと努めました。岸野先生から「ゴールデンウィークを過ぎても出席者が減らない」、と妙なほめられ方をされたのを憶えています。

もうひとつの転機は2000年に現在の京都大学の社会健康医学系専攻で医療統計学の担当となったときです。社会健康医学系専攻は欧米の School of Public Health の日本版で、Master of Public Health (MPH) という専門職学位を授与するのですが、国際的にも MPH のカリキュラムでは「医療統計学」が必修となっています。欧米に負けない立派な医療統計のカリキュラムを、と意気込んで準備していきました。社会健康医学専攻の学生さんはもちろん医療系の出身者が多いのですが、文科系の出身者も一定数いて、毎年「これまで統計学の授業を受けたことがない」という学生さんが数名います。必修の講義ですから、こういった学生さんにもある程度はわかりやすく講義をしなければならず、方針を変更し、工夫を重ねざるをえないことになりました。

現在の医療統計学のシラバスは、社会健康医学系専攻のホームページ、

<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/campus-life/syllabus/>

からアクセスすることができます。前半6回は表

だって統計の話はせずに、わたしが参加した疫学研究や臨床試験の実例を紹介しながら、研究はどのように実施されているのか、その中でどのように医療統計の考え方は活かされているのか、を話しています。ところどころに詳しい説明は抜きで、割合の比、割合の差、オッズ比といった用語をちりばめ、徐々に学生たちを慣らしていきます。その後でようやく、検定（検定結果、とくに有意かどうかは重要ではないこと）、信頼区間、サンプルサイズ設計について、さして最後にバイアスに関する注意がもっとも大事であることを強調する、という構成になっています。

医療統計に限らず統計は実務と切り離せない学問ですから、事例に沿って、しかもできれば教科書的な例ではなく、自身が統計専門家として参加した研究・事例について講義をするのが最も効果的ではないかと思っています。

京都に移ってしばらくして、統計数理研究所の坂元慶行先生から ESTRELA という雑誌に「統計数理はいま」という連載をみんなで書いているので、次はあんたが書け、と命令がありました。それまでの京都大学での経験を生かして、「比、割合、率」の違いの解説から始まる「宇宙怪人しまりす」が誕生しました。幸いにも2005年に岩波科学ライブラリーから「宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ」として出版していただけることになり、続編の「検定の巻」も2012年に出版できました。続編は「検定の巻」とは銘打っていますが、医療統計の講義で話しをしているように、検定よりも

バイアスに対する注意のほうがずっと重要であることを強調した内容となっています。

2015年には東京大学/滋賀大学の竹村彰通先生のお誘いを受け、日本統計学会と日本計量生物統計学会が協力して gacco の「統計学Ⅱ」を開講し、わたしは第5週「分割表と適合度の解析」を担当させていただきました。こうしたオンライン講義ははじめてで、自分ではいろいろと工夫したつもりではあったのですが、受講者の方たちからは、「第5週が難しい」という声がたくさんあり、オンライン講義の難しさを痛感しました。「統計学Ⅱ」は統計検定2級レベル、と言われていたことから、『これぐらいできないと2級は合格しないよなあ』と統計検定2級にとらわれ過ぎていたのが敗因(?)だった、と反省しています。

最後にみなさんにお願ひですが、教養の1、2年の段階では学生さんたちに「統計学のおもしろさ」を是非伝えていただきたいと思います。将来統計の専門家になるわけでもないのに、教養で数理統計の講義をされると、学部に来たときにははっきり「統計嫌い」ができあがっています。とくに生物系・医学系の学生は、ほとんどが数学がきらいで生物系に進んでいるので、そこからさらに統計嫌いに進ませないためにも、さまざまな領域で統計学が使われていて、いろいろな役に立っている、という事例を紹介していただきたいと思います。ビッグデータ時代、といわれていますが、プロフェッショナル統計家が解析するところも違うんだ、ということをおわかってもらいたいですね。

11. 理事会・委員会報告（平成28年5月14日開催）

第2回通常理事会

日時：2016年5月14日（土）10：00～12：00

場所：中央大学後楽園キャンパス6号館4階6413号室

理事の総数12名 出席理事の数11名

監事の総数3名 出席監事の数2名

出席者

理事：岩崎学会長、中野純司理事長、酒折文武（庶務）、
間野修平（庶務）、山下智志（会計）、倉田博史（会

誌編集欧文）、笹田薫（会誌編集和文）、森裕一（広報）、青木敏（大会・企画・行事）、照井伸彦（渉外）、
瀬尾隆（渉外）（以上、11名、カッコ内は役割分担）

監事：鎌倉稔成、田中勝人（以上、2名）

<第1議案> 2015年度事業報告について

中野理事長より、資料に基づき、2015年度事業について報告があり、審議の結果これを承認し、社員総会にて報告することとした。

＜第2議案＞ 2015年度決算報告について

山下理事より、資料に基づき、2015年決算について報告があり、審議の結果これを承認し、社員総会にて報告することとした。

＜第3議案＞ 監査報告について

鎌倉監事、田中監事より、資料に基づき、2015年度事業報告および決算の監査について報告があり、審議の結果これを承認し、社員総会にて報告することとした。

＜第4議案＞ 常設委員会委員長および委員の選任について

中野理事長より、照井理事と瀬尾理事を渉外委員会委員に委嘱（2016年5月14日）すること、および照井理事を同委員長に委嘱することの提案があり、審議の結果これを承認した。また、資料に基づき、以下の委員会による委員の交代が提案され、審議の結果、承認した。

・学会活動特別委員会

大森裕浩（委員長）、足立浩平、内田雅之、鎌倉稔成、川崎茂、川崎能典、国友直人、栗木哲、栗原考次、坂本亘、佐藤学、清水誠、高部勲、竹村彰通、椿広計、富田誠、中野純司、樋口知之、矢島美寛、吉田朋広、渡辺美智子

・学会組織特別委員会

谷崎久志（委員長）、岩崎学、大屋幸輔、狩野裕、黒住英司、桑原廣美、竹内光悦、田畑耕治、田村義保、西山慶彦、福井武弘、藤越康祝、山本紘司、美添泰人

＜第5議案＞ 理事の辞任と選任について

中野理事長より、酒折理事の辞任（2016年6月18日付）の申し出について報告があり、審議の結果これを承認し、社員総会に諮ることとした。また、新任の理事として村上秀俊氏および中谷朋昭氏を委嘱（2016年6月18日付）することの提案があり、審議の結果これを承認し、社員総会に諮ることとした。

＜第6議案＞ 会員の入退会

中野理事長より、資料に基づき入退会者が紹介され、承認された。

＜第7議案＞ 社員総会招集の件

岩崎会長より、社員総会を以下の通り招集する提案があり承認した。

1. 日時2016年6月18日（土曜日）午後1時30分から
2. 場所統計数理研究所会議室1（D222）
3. 会議の目的事項
(1) 社員総会における通常の審議

委員会

日時：2016年5月14日（土）11：00～12：00

場所：中央大学後楽園キャンパス6号館4階6413号室

出席：理事11名、監事2名、計13名

岩崎学会長、中野純司理事長、酒折文武、間野修平、山下智志、倉田博史、笹田薫、森裕一、青木敏、照井伸彦、瀬尾隆、鎌倉稔成（監事）、田中勝人（監事）

＜報告事項＞

1. 欧文誌編集委員会

倉田委員長より、第30回小川賞の表彰者が報告され、社員総会への報告を経て公表することとした。第45巻2号が発行されたことが報告された。

2. 和文誌編集委員会

笹田委員長より、第45巻第2号が発行されたことが報告された。

3. 大会委員会

青木委員長より、資料に基づき、2016年度統計関連学会連合大会に関して、プログラム委員会と運営委員会からの報告があった。

4. 企画・行事委員会

青木委員長より、資料に基づき、第11回日本統計学会春季集会（2017年3月4日政策研究大学院大学で開催）に関する報告があった。

5. 庶務委員会

報告事項なし。

6. 広報委員会

森委員長より、広報の企画とウェブサイトの更新について報告があった。

7. 国際関係委員会

中野理事より、塚原委員長の代理として、資料に基づき、2016年度統計関連学会連合大会における企画セッションと、Akaike Memorial Lectureの実施・選考・第1回の受賞者について報告があった。

8. 渉外委員会

照井理事より、科研費・国際情報発信強化は不採択であったことが報告された。

9. その他

MOOC委員会からの報告として、酒折理事より、gacco「統計学Ⅰ」の開講について報告があった。

＜審議事項＞

1. 欧文誌編集委員会

学会の費用負担で英文校閲をしてきたが、廃止する方向で検討することとした。

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし。

3. 大会委員会

審議事項なし。

4. 企画・行事委員会

審議事項なし。

- 5. 庶務委員会
審議事項なし。
- 6. 広報委員会
審議事項なし。
- 7. 国際関係委員会

- 審議事項なし。
- 8. 渉外委員会
審議事項なし。
- 9. その他
審議事項なし。

12. 社員総会報告

日時：2016年6月18日（土）13：30～15：00

場所：統計数理研究所 会議室1（D222）

出席者：岩崎学会長，代議員：足立浩平，内田雅之，狩野裕，川崎茂，国友直人，坂本亘，高部勲，田村義保，中野純司，樋口知之，美添泰人（以上12名，委任状提出7通，議決権行使書16通）（オブザーバ：倉田博史，酒折文武，間野修平，山下智志）

冒頭，岩崎会長より定足数確認後，開会宣言がなされ，オブザーバ4名の出席が承認された。岩崎会長より議事録署名人として田村義保，美添泰人両代議員が提案され，承認された。

審議事項

＜第1議案＞ 2015年度事業報告及び決算の承認に関する件一定款第12条（5）

岩崎会長および山下理事より，資料に基づき，2015年度事業報告及び決算について報告があり，また，国友監事より，資料に基づき監査について報告があり，審議の結果，2015年度事業報告及び決算を承認した。

＜第2議案＞ 理事の辞任・選任に関する件一定款第12条（3）

中野理事長より，資料に基づき，酒折文武理事の辞任の申し出を承認すること，また，庶務担当の新任理事として村上秀俊氏，国際担当の新任理事として中谷朋昭氏を選任することの提案があり，審議の結果，提案を承認した。

報告事項（理事会報告）

1. 会員の入退会

中野理事長より，回覧資料に基づき，会員の入退会について報告があった。

2. その他

なし。

報告事項（委員会報告）

1. 常設委員会における委員長・委員の就任について

中野理事長より，資料に基づき，常設委員会の委員長・委員の就任について報告があった。

2. 2016年度統計関連学会連合大会について

中野理事長より，2016年度統計関連学会連合大会について報告があった。

3. 2016年3月開催の春季集會について

中野理事長より，2016年3月開催の春季集會について報告があった。

4. 日本統計学会各賞受賞者について

岩崎会長（表彰委員会委員長）より，資料に基づき，学会賞各賞の受賞者の指名と受賞理由が報告された。

5. 科研費・国際情報発信強化の不採択について

中野理事長より，科学研究費助成事業研究成果公開促進費「国際情報発信強化」が不採択であったことが報告された。

6. その他

なし。

報告事項（その他）

1. 学会活動特別委員会

報告事項なし。

2. 学会組織特別委員会

報告事項なし。

3. 統計教育委員会

報告事項なし。

4. スポーツ統計分科会

田村主査より，資料に基づき報告があった。

5. 金融の計量リスク管理分科会

酒折理事（塚原主査代理）より，資料に基づき報告があった。

6. 次回日程等

中野理事長より，2016年度役員・代議員協議会を2016年9月4日（日）18：10より石川県教育会館 第一会議室で開催する予定であるとの報告があった。

7. その他

岩崎会長より，資料に基づき，統計関連連合学会欧文ジャーナルと統計学会の対応について報告があった。

2015年度事業報告

(2015. 4. 1～2016. 3. 31)

0. 学会の動向

日本統計学会が一般社団法人として5年目を迎えた。6月13日に新しい理事会が発足し、岩崎学会長、中野純司理事長を含む12名の理事と3名の監事、および各種委員会における委員の運営により、引継ぎ後の10か月を終えることができた。統計検定事業の継続、MOOC講座の体系化、Akaike Memorial Lectureの準備など統計学の普及および推進に大きく貢献した年度であった。

2016年2月24日現在の会員の数は1,546である(名誉会員16, 正会員1,440, 学生会員64, 賛助会員19, 団体会員7)。

I. 出版編集事業

1. 欧文誌の発行

欧文誌2号[Vol.45 No.1 (6月), No.2(12月)]を発行した。

内訳は原著論文8編, 全162ページであった。

2. 和文誌の発行

和文誌2号[第45巻シリーズJ第1号(9月), 第2号(3月)]を発行した。第1号で「空間データの計量経済分析」, 「Bayes 推測における諸問題」, 第2号で「金融リスク管理における統計的方法」の特集を組んだ。

内訳は原著論文4編, 特集11編, 会長就任講演寄稿論文1編, 受賞者特別寄稿論文1編, 書評3編, その他を合わせ全375ページであった。

3. JSS Research Series in Statistics シリーズ (英文) の出版

昨年度に引き続き, JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った。

2016年4月現在6冊が出版済みであり, 今後も10冊以上の出版を予定している。

4. 会報の発行

No.163 (4月), No.164 (7月), No.165 (10月), No.166 (1月) を発行した。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第83回大会の開催

2015年9月6日(日)～9日(水), 岡山大学において, 統計関連学会連合大会の一環として開催した。企画セッションとして, 日本統計学会会長講演, 日本統計学会各賞受賞者講演, CSA-KSS-JSS joint international session, Wakimoto Memorial Session (CIPS-JSS-KSS International Session for Young Scholars) を企画した。

2. 春季集会の開催

2016年3月5日(土)に第10回春季集会を東北大学において開催した。

3. 研究分科会の活動

現在, 活動中の以下の分科会に加え, 新規に活動を開始する分科会を随時募集する。

「スポンツ統計分科会」(田村義保主査: 2009年6月発足, 2017年5月終了予定)
「金融の計量リスク管理分科会」(塚原英敬主査: 2009年9月発足, 2017年8月終了予定)

「統計教育分科会」(藤井良宜主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)

4. 常設委員会としての渉外委員会の設置

5. 大学間連携共同教育推進事業へのステークホルダーとしての参加の継続

平成24年度採択の大学間連携共同教育推進事業(文部科学省)「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」にステークホルダーとして参加した。事業期間は2012年9月27日より2016年度末までである。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため, 以下の賞を授与した。

第20回日本統計学会賞: 久保川 達也, 美添 泰人

第11回日本統計学会統計活動賞: 該当なし

第11回日本統計学会統計教育賞: 独立行政法人統計センターにおける教育用疑似ミクロデータの開発チーム, 峰野 宏祐

第9回日本統計学会研究業績賞: 加藤 昇吾, 黒住 英司

第8回日本統計学会出版賞: 金 明哲・共立出版(共同受賞)

第29回日本統計学会小川研究奨励賞: 平野 敏弘

2. 各種委員会の活動

社員総会(2015年6月13日, 2016年3月4日)を開催した。

理事会(2015年5月16日, 7月18日, 11月22日, 2016年2月6日)を開催した。

役員・代議員協議会(2015年9月6日)を開催した。

その他の各種委員会を適宜, 開催した。

4. 広報活動の充実

メールマガジンの使用やホームページの充実により, 各種情報発信を促進した。

5. 会員名簿の発行・web会員名簿の更新

会員名簿を発行し, web会員名簿を更新した(2015年12月)。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力

2015年6月21日(日)と11月29日(日)に、日本統計学会が認定団体となり、公益財団法人統計情報開発センターおよび一般財団法人統計研究会の共催の下に、一般財団法人統計質保証推進協会が「統計検定」を実施した。また、2015年5月22日(金)～24日(日)には、RSS/JSS試験を統計検定の一環として行った。

2. M00Cによる統計学講座の提供

M00Cのプラットフォーム gacco において、「統計学 I：データ分析の基礎」および「統計学 II：推測統計の方法」を開講した。また、これらの講座の講義のスタディノートを発行した。

V. その他

なし。

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の2015年4月1日から2016年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類(正味財産増減計算書、貸借対照表)について検討いたしました。

監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

一、事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。

二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な

事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2016年5月10日

一般社団法人 日本統計学会

監事

岡友直人

監事

田中啓人

監事

鎌倉 稔 成

事業報告附属明細書

附属明細書に記述すべき事項はない。

一般社団法人 日本統計学会

2015年度 決算書(連結ベース)

2015年4月1日～2016年3月31日

(単位 円)

正味財産増減計算書

| | | 2015年度予算 | 2015年度決算 | 備考 |
|----------------------|----------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| I. 一般正味財産増減の部 | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | |
| (1) 経常収益 | | 14,145,000 | 14,908,804 | |
| 会費収入 | | 10,900,000 | 11,659,000 | |
| | 名誉会員・正会員 | 10,100,000 | 10,649,000 | |
| | 学生会員 | 200,000 | 272,000 | |
| | 遡及請求分 | 600,000 | 738,000 | |
| 賛助人会費 | | 1,000,000 | 955,000 | |
| 団体会員費 | | 280,000 | 280,000 | |
| 科学研究費補助金等 | | 500,000 | 24,000 | |
| 雑収入 | | 1,465,000 | 1,990,804 | |
| | 会誌購読料 | 700,000 | 432,500 | |
| | 利子収入 | 15,000 | 18,311 | |
| | 広告収入 | 700,000 | 660,000 | |
| | その他 | 50,000 | 879,993 | 著作権許諾料,助成金他1) |
| (2) 経常費用 | | 16,014,000 | 14,754,078 | |
| 印刷費 | | 8,150,000 | 7,602,965 | |
| | 会誌(44巻1,2,44-J1,J2号) | 6,800,000 | 6,087,852 | |
| | 会報(159-162号) | 750,000 | 817,570 | |
| | 名簿印刷費 | 100,000 | 206,280 | |
| | その他印刷 | 500,000 | 491,263 | 会誌・会報の封筒作成、大会冊子等 |
| 大会開催費 | | 1,250,000 | 1,472,504 | |
| | 春季集会開催費 | 600,000 | 999,005 | * |
| | 各賞運営経費 | 390,000 | 261,664 | |
| | 出版賞費 | 50,000 | 44,952 | 75周年記念基金充当 |
| | 小川賞費 | 110,000 | 109,883 | 小川賞基金充当 |
| | その他大会開催費 | 100,000 | 57,000 | 連合大会賛助会員招待分 |
| 研究部会費 | | 300,000 | 0 | |
| 研究分科会費 | | 100,000 | 80,000 | |
| 学会運営会合費 | | 270,000 | 140,496 | |
| | 評議員会(社員総会) | 70,000 | 18,906 | |
| | 特別委員会 | 60,000 | 39,600 | |
| | 統計教育委員会 | 20,000 | 3,840 | |
| | 会誌編集委員会 | 20,000 | 0 | |
| | 理事会 | 100,000 | 78,150 | |
| 事務費 | | 280,000 | 147,721 | |
| | 一般事務人件費 | 40,000 | 0 | |
| | 校正編集事務人件費 | 80,000 | 72,000 | |
| | 発送事務人件費 | 90,000 | 43,200 | |
| | 事務用品 | 40,000 | 21,471 | |
| | その他 | 30,000 | 11,050 | *事務員の交通費・収入印紙 |
| 学会事務業務委託費 | | 2,592,000 | 2,592,000 | |
| 通信・郵送料 | | 1,460,000 | 1,420,110 | |
| | 会誌送料 | 600,000 | 344,624 | |
| | 会報送料 | 450,000 | 647,078 | * |
| | 名簿送料 | 10,000 | 5,536 | |
| | その他通信・郵送料 | 400,000 | 422,872 | |
| 役員旅費補助 | | 150,000 | 368,540 | * |
| 各種分担金 | | 150,000 | 153,831 | * |
| | 日本経済学会連合 | 35,000 | 35,000 | |
| | 国際統計協会ISI | 25,000 | 28,831 | * |
| | 横幹連合 | 50,000 | 50,000 | |
| | 統計関連学会連合 | 40,000 | 40,000 | |
| | その他 | 0 | 0 | |
| ネットワーク維持費 | | 42,000 | 16,740 | ドメイン使用料,学会サーバー委託 |
| 国際交流促進費 | | 200,000 | 689,171 | * |
| 名簿作成積立金 | | 0 | 0 | |
| 統計検定関係費 | | 0 | 0 | |
| 租税公課 | | 70,000 | 70,000 | 都民税 |
| 世界統計会議(ISD)派遣補助 | | 1,000,000 | 0 | |
| 当期経常増減額 | | 596,000 | 154,726 | |
| (うち特定資産以外) | | 1,146,000 | 554,636 | |
| (うち特定資産) | | ▲ 550,000 | ▲ 399,910 | |
| 2. 経常外増減の部 | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | |
| 75周年記念事業員会資金追加譲受益 | | 0 | 0 | |
| 当期経常外増減額 | | 0 | 0 | |
| 一般正味財産期首残高 | | 88,773,927 | 88,733,927 | |
| 一般正味財産期末残高 | | 89,369,927 | 88,888,653 | |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | | 0 | 0 | |
| 指定正味財産期首残高 | | 0 | 0 | |
| 指定正味財産期末残高 | | 0 | 0 | |
| III 正味財産期末残高 | | 89,609,152 | 88,888,653 | |
| VI 予備費 | | | | |
| | | 3,000,000 | 0 | |

(注)費用項目中予算を超過する項目(*印)があるが全て予備費の範囲内のもの

2015年度決算書

(2016年3月31日現在)
(単位 円)

貸借対照表

| 科目 | 借方 | | 科目 | 貸方 | |
|---------------|------------|------------|-------------------|------------|------------|
| | 期首 | 期末 | | 期首 | 期末 |
| I. 資産の部 | | | II. 負債の部 | | |
| 現預金 | 11,548,272 | 12,602,908 | 未払金 | 0 | 0 |
| 貸付金 | 2,500,000 | 2,000,000 | 負債合計 | 0 | |
| 流動資産合計 | 14,048,272 | 14,602,908 | III. 正味財産の部 | | |
| | | | 指定正味財産 | 0 | 0 |
| | | | 一般正味財産 | 88,733,927 | 88,888,653 |
| | | | | | |
| | | | (うち基本財産への充当額) | 0 | 0 |
| 学会活動積立金 | 3,501,169 | 3,501,910 | | | |
| 60周年記念基金 | 2,766,195 | 2,508,986 | | | |
| 75周年記念基金 | 1,693,049 | 1,646,436 | | | |
| ISI基金 | 51,895,855 | 51,906,799 | | | |
| ICP基金 | 11,272,726 | 11,275,101 | | | |
| 小川基金会 | 3,556,661 | 3,446,513 | | | |
| 特定資産合計 | 74,685,655 | 74,285,745 | (うち特定財産への充当額) | 74,685,655 | 74,285,745 |
| 固定資産合計 | 74,685,655 | 74,285,745 | 正味財産合計 | 88,733,927 | 88,888,653 |
| 資産合計 | 88,733,927 | 88,888,653 | 負債及び正味財産合計 | 88,733,927 | 88,888,653 |

(注) 貸付金は一般財団法人統計質保証推進協会宛 2,000,000円。

ISI基金はISI東京大会記念事業基金。

ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金。

特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減及びその残高は次のとおりである

(単位:円)

| 科 目 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 | 摘 要 |
|------------------|------------|--------|---------|------------|----------------------------|
| 会活動積立 | 3,501,169 | 741 | 0 | 3,501,910 | 増加額は預金利息 |
| 60周年記念基金 (注1) | 2,766,195 | 28,647 | 285,856 | 2,508,986 | 増加額は預金利息562 減少額は各賞等目的取崩 |
| 75周年記念基金 (注2) | 1,693,049 | 325 | 46,938 | 1,646,436 | 増加額のうち、預金利息89 |
| ISI基金 (注3) | 51,895,855 | 10,944 | 0 | 51,906,799 | 増加額は預金利息 |
| ICP基金 (注4) | 11,272,726 | 2,375 | 0 | 11,275,101 | 増加額は預金利息 |
| 小川基金会 (注5) | 3,556,661 | 728 | 110,876 | 3,446,513 | 増加額は預金利息 |
| 合計 | 74,685,655 | 43,760 | 443,670 | 74,285,745 | |

(注1) 60周年記念基金の資金使途は学会賞及び学会活動他

(注2) 75周年記念基金の資金使途は出版賞その他

(注3) ISI基金はISI東京大会記念事業基金

(注4) ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金

(注5) 小川賞基金の資金使途は小川賞

13. 博士論文・修士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします。なお、(6) 取得年月はすべて2016年3月です。(敬称略)

修士論文

● (1) 江田智尊 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Support Vector Machine における変数選択について (5) 西井龍映

● (1) 濱村康平 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) スマートフォン搭載の加速度センサーによる道路状況の判別分析 (5) 西井龍映

● (1) 森山卓 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) ウィルコクソンの符号付き順位検定の連続化とエッジワース展開による有意確率の近似 (5) 前園宜彦

● (1) 上原悠楨 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Two-step Estimation of Ergodic Levy Driven SDE (5) 増田弘毅

● (1) 金相知 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Testing signal in additive symmetric Stable Levy noise (5) 増田弘毅

● (1) 馬場崇充 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 周辺構造平均モデル同定のための漸近 C_p 基準 (5) 二宮嘉行

● (1) 工藤雅紀 (2) 修士 (理学) (3) 島根大学 (4) Data Sharpening on Unknown Manifold (5) 内藤貫太

● (1) 中谷陽平 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 相関トピックモデルによる文書分類についての一考察 (5) 森本孝之

● (1) 芦田莉奈 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) Google 検索数指数と日本の株式市場 (5) 森本孝之

● (1) 宇都宮匡 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院

大学 (4) 多変量 Realized GARCH モデルによるボラティリティの予測 (5) 森本孝之

● (1) 下大屋良将 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 時変パラメータ VAR モデルによる原油価格が株式市場に与える影響について (5) 森本孝之

● (1) 山内雄太 (2) 経済学修士 (3) 東京大学 (4) Multivariate Stochastic Volatility Model with Realized Volatility and Pairwise Realized Correlation (5) 大森裕浩

● (1) 中谷陽平 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 相関トピックモデルによる文書分類についての一考察 (5) 森本孝之

● (1) 芦田莉奈 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) Google 検索数指数と日本の株式市場 (5) 森本孝之

● (1) 宇都宮匡 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 多変量 Realized GARCH モデルによるボラティリティの予測 (5) 森本孝之

● (1) 下大屋良将 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 時変パラメータ VAR モデルによる原油価格が株式市場に与える影響について (5) 森本孝之

● (1) 兵藤紀幸 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Tests for high-dimensional covariance structures using the extended cross-data-matrix methodology (5) 青嶋 誠

● (1) 江面友希 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) 高次元におけるサポートベクターマシン (5) 青嶋 誠

● (1) 長尾昌宗 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) A two-sample test for high-dimension, low-sample-size data (5) 青嶋 誠

博士論文

● (1) 梅津佑太 (2) 博士 (機能数理学) (3) 九

州大学 (4) Model Selection and Active Learning for High-Dimensional Data Analysis (5) 二宮嘉行
● (1) 上阪彩香 (2) 博士 (文化情報学) (3) 同

志社大学 (4) 西鶴浮世草子の文章に関する数量的研究—遺稿集を中心とした著者の検討— (5) 村上征勝

14. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・「計量文献学の射程」, 村上征勝, 金明哲, 土山玄, 上阪彩香 著, 勉誠出版, 2016年3月, 3,800円+税

・「経済・経営系のための統計入門」, 景山三平監修, 元山斉, 伊藤有希, 高橋一 編修, 実教出版, 2016年4月, 2,200円+税。

内容紹介: 新学習指導要領で学んだ大学生・社会人対象の教科書です。各章の初めに提示される「課題」を解決する手法を学びます。高校の知識の復習から始め、その後、発展的な手法を学び、経済・経営系以外でも利用可能です。

・「ゲノム情報解析～次世代シーケンサーの最新

の方法と応用」, 石井一夫, 富田因則, 丹生谷博, 大藤道衛 (監訳), Maria S. Poptsova (編集), (株) エヌ・ティー・エス, 2016年3月, 36,000円+税。

内容紹介: 最新のゲノム解析について統計解析やデータ分析を含むコーディングやアルゴリズムを紹介している書籍であり、統計学を専門にしている人にも有用です。

・「教養のための統計入門 (事例でわかる統計シリーズ)」, 景山三平 (監修) 大田靖・宿久洋 (著), 実教出版, 2016年5月, 2,300円+税。

内容紹介: いつも食べている学食のカレー「最近少ないなー」と思ったとき、あなたならどうしますか? 「その問題、統計が解決します!」本書は、このような私たちの日常に溢れる様々な問題の統計的な解決方法が学べる統計の入門書です。

15. 会員からの情報提供

会員からの投稿された情報提供の内容を掲載します。

研究集会案内

科学研究費補助金 基盤研究 (A) 15H01678 「大規模複雑データの理論と方法論の総合的研究」研究代表者: 青嶋 誠 (筑波大学) によるシンポジウムをご案内します。

(1) 「複雑な生命現象を読み解くための大規模データ解析とモデリング」

開催責任者: 植木優夫 (久留米大学バイオ統計センター)

日時: 2016年11月7日 (月) ~ 8日 (火)

場所: 久留米シティプラザ

(2) 「International Symposium on Statistical Analysis for Large Complex Data」

開催責任者: 青嶋 誠 (筑波大学), イリチュ美佳 (筑波大学), 矢田和善 (筑波大学)

日時: 2016年11月21日 (月) ~ 23日 (水)

場所: 筑波大学自然系学系棟 D棟509 (筑波キャンパス内)

(3) 「統計科学の現代的課題」

開催責任者: 星野伸明 (金沢大学)

日時：2017年1月27（金）～29日（日）
場所：金沢大学サテライトプラザ3階集会室

(4)「統計的モデリングと計算アルゴリズムの数理と展開」

開催責任者：金森敬文（名古屋大学）

日時：2017年2月18日（土）～19日（日）
場所：名古屋大学情報科学研究科棟1階第1講義室

詳細は下記をご覧ください。

http://www.math.tsukuba.ac.jp/~aoshima-lab/jp/kiban_A.html

情報・システム研究機構 統計数理研究所 研究教育職員公募

1. 公募人員：助教若干名
2. 所属：モデリング研究系，データ科学研究系，数理・推論研究系のいずれか
3. 業務内容：統計数理（研究系又はNOEセンターの業務内容に関連する領域）の理論・方法又は応用に関する研究

4. 採用予定時期：2017年4月1日以降の早い時期（着任時期は相談に応じます。）
5. 任期：5年（再任可，ただし，任期は5年1回限り，詳細は下記ホームページ参照のこと。）
6. 給与：情報・システム研究機構就業規則等に基づく。
7. 応募資格：博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む）を有する者又は2017年3月31日までに取得見込みの者，また，国籍は問いません
8. 応募期限：2016年9月30日（金）消印有効
9. その他：詳細は

http://www.ism.ac.jp/jobs/index_j.html を参照してください。統計数理研究所においては助教ができる限り研究に専念できるようにする運営を行っており，次のような利点があります。

- ・雑務がほとんどなく，自律的および自立的な研究ができる
- ・所内外へのアカデミアポストへの昇任に関する良好な実績
- ・異分野交流が自然とできる好環境

16. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2016年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上，こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに，氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

入会承認

赤堀真司，朝日弓未，阿部寛康，上原悠楨，上向井亮，大川口信一，大山智基，緒方光，掛札純平，金木勇志，久保裕太郎，黒木宏一，小池孝明，坂田綾香，佐藤良亮，杉山浩平，高岸茉莉子，寺山通博，豊田義純，永井利昌，長島孝至，永田大貴，南雲朗浩，成塚拓真，西塚真太郎，半澤浩一，深澤優太，藤山俊文，松浦義昭，松田裕也，茂木嶺志，山田健太郎，吉田敦，渡辺寛之，(株)アゴラ・ステーション（敬称略）

退会承認

青木隆明, 安道知寛, 池端利幸, 稲川健太郎, 岩澤美帆, 大木佑輔, 大久保隆, 大塚豊, 川北哲史, 川田章広, 川人めぐみ, 北原秋一, 工藤雅紀, 熊谷章, 栗原浩介, 桑原優美, 下道成人, 鈴木和幸, 鷺見拓哉, 駿河輝和, 関谷章, 高橋かおる, 辻卓見, 道工勇, 中沢孝則, 中園章代, 中村裕子, 縄田雅秀, 新田功, 林原正之, 深田大介, 富金原悟, 船木洋一, 細谷美貴, 増田賢司, 山越徳, 山田文康, 山野辺貴信, (有) 啓文堂松本印刷 (敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員

浅見征平, 石田孝造, 石森裕康, 今川保, 遠藤秀剛, 澤谷秀之, 伊達木瀧之助, 張姝, 友定充洋, 中川雅貴, 長野礼二, 仁木直人, 藤井孝宗, 山内美恵子 (敬称略)

現在の会員数 (2016年5月14日)

| | |
|------|--------|
| 名誉会員 | 16名 |
| 正会員 | 1,420名 |
| 学生会員 | 57名 |
| 総計 | 1,493名 |
| 賛助会員 | 19法人 |
| 団体会員 | 7団体 |

17. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)
- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。
- 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)
できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致し

ます。

原稿送付先:

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学 総合情報学部 社会情報学科
森 裕一 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp